

子どもも大人も弾ける笑顔

第4回「地域交流と文化の祭典」には、初めて来場者の体験コーナーが設けられました。あいにくの雨天でしたが、親子連れが多数参加。昔遊び・フラダンス・朗読・皿回しなどに興じ、子どもも大人も、「面白かった」「気持ちよかった」と笑顔でした。

午後1時から始まったあかりの会の体験コーナー。スタッフのインタビューに答えて、3歳の女兒が片言で「おばあちゃんのこと、いっぱい、いっぱい好き。好きな食べ物はキャベツ」と。5歳の姉は「わたしが好きなのはニンジン」。傍らで祖母が見守ります。この様子を別のスタッフが録音しています。(写真⑥) 朗読は来場者のほとんどが初めてなので、「ドキドキした。録音の声は自分の声とは違う気がする」とびっくりした様子です。声のテープは、来場者20人にプレゼントされました。

大正琴プリムラ会場では、14、5歳の少女が「さくら さくら」を弾いています。初めてなのに、ほとんどノーミス。スタッフは「すごい上手。私はやるのがない」と驚いていました。

むかしあそび研究会の折り紙、けん玉など、うらしまたろうのバルーンアートと皿回し、おはなし糸車の大型絵本の読み聞かせ、ボランティアグループわらべの紙芝居を語る体験では、親子連れらが目いっぱい楽しんでいました。バルーンアートでは、風船をふくらませる途中「パーン」と割れ、「チャー」と悲鳴が上がっていました。

詩吟同好会・楽遊クラブ銀雅・KSCハワイアンフラ・新舞踊クラブは、各2回、20分の体験コーナーを開催、一般の人にも賑やかに参加しました。

ステージ演奏は午前10時にSCハワイアンズのフラで華やかにスタート。最後は、コーロKSCが、滝廉太郎の「花」などを歌って締めくくりました。

〈わ〉傘下では7団体が、日ごろの活動で培った円熟の技を披露しました。

地域の団体は4グループがダンス・太鼓・銭太鼓を元気一杯に披露、会場はその若い熱気で大いに沸きました。



地域交流と文化の祭典
体験コーナー初の試み

G★clefは総勢約50人で園児チーム・小学生男子・女子チームなどグループ毎に、大きく手を振り、飛び跳ね、力強いステップを次から次に披露。小学6年生の女子は「ダンスはもう7～8年続けていて、とても楽しい」と。



ステージで躍動するキッズダンス

F. TRAINのダンスチームは小学生らとママと一緒に舞台上で躍動。六甲道児童館銭太鼓クラブは、小1女兒が懸命に演技する姿が目を引きました。

北神戸太鼓団の若者代表は演技後、背中にじっとりと汗をかき、「お腹に響く音ときちんと刻むリズムが最高」と太鼓の醍醐味を話してくれました。

た。小林精一・文化部長は「強い雨風の中、たくさんの方に来ていただき、大変ありがたい。体験コーナーのスタンブラリーでは、90人余りに賞品を渡すことができ、まずは成功だった」と総括していました。(取材・永野知己 岡本紘一)

◆ステージ出演＝SCハワイアンズ、KSC男声合唱団、KSCマジッククラブ、コーラス・タルミ、KSC手話ソング同好会、混声合唱団コーロKSC マこども団体＝G★clef、R/S DANCE SCHOOL F. TRAIN、北神戸太鼓団 Don 努鼓、六甲道児童館銭太鼓クラブ&楽遊クラブ銀雅
◆体験コーナー＝あかりの会、むかしあそび研究会、うらしまたろう、おはなし糸車、大正琴プリムラ、ボランティアグループ わらべ、詩吟同好会、楽遊クラブ銀雅、KSCハワイアンフラ、新舞踊クラブ

この事業は「独立行政法人 福祉医療機構社会福祉振興助成事業」によるものです。